

果樹栽培と気象

川口昭二

果樹を栽培するにあたって、樹の発育、果実の肥大、品質に対して気候風土の及ぼす影響は重要である。そこで、唐湊果樹園では、気象記録をとることによって適品種の選定、栽培法の改善のための参考にしている。今回の発表会では、果樹栽培と気象の関係にふれるとともに唐湊果樹園の気象の特徴とそれに対応した栽培法の改善について発表する。

1. 果樹栽培と気象の関係

1) 温州ミカン

気温：年平均15℃で、16～17℃が適温であり、冬期－5℃以下に下がらないことが必要である。

雨量：一般的に降雨量が多いと病害虫の多発を招き、日照量が減少する結果、果実の品質が著しく低下する。特に8月～11月の日照が果実の全糖に及ぼす影響は大きい。

風：台風に対する考慮なくしてはミカンの経済栽培は成り立たない。暴風対策（防風樹の設置）が必要である。

2) ポンカン

温暖地に栽培され、最もポンカンに適する温度は年平均温度20℃である。本県では、年平均気温18℃以上をポンカン地帯として、17～18℃を中間地帯（ポンカン、温州ミカン混在）と呼んでいる。果実は、－2.6～－3.5℃でかなりのものが凍る。－3.6℃以下では落果し、－6℃で落葉する。したがって、12月に－3℃以下の低温がおこるような地帯は適地ではない。

3) タンカン

果実が樹上で越冬するので冬期の気温が0℃以下に下がらないことが望ましく、年平均気温19℃以上で、果実が樹上にある期間－3℃以下に下がらない地帯でなければならない。

4) 甘夏ミカン

樹自体の耐寒力は他の晩柑類に比べてやや強いが、凍傷、落果、ス上り現象を起こしやすい。したがって、年平均気温16℃～18℃、1月～2月の平均気温は5℃以上で、この期間の最低気温は－3℃以下に下がらない地帯が望ましい。

5) 文旦

熱帯および亜熱帯柑橘で、温州ミカンに比べて耐寒性が弱い。年平均気温17～18℃で最低気温は－3℃以下に下がらない地帯が望ましい。

※（以上の柑橘類の中では、タンカン、甘夏ミカン、文旦は晩熟柑橘であり、果実をつけたまま越冬するため温州ミカンに比べて適地が制限されている）。

6) ビワ

気温：他の果樹と違って冬に開花結実するので、冬季の気象条件によって寒害を受けやすい。また、冬季温暖なところで、同時に春から初夏にかけて温度の高い地方ほど品質の良い果実ができる。したがって、1月～2月に－3℃以下に下がらないところが望ましい。

雨量：収穫期前後の降雨は、果実の糖度を低下させ、3月～4月に乾燥すると、果実の発育が悪く硬くなる。

風：浅根性で、地上部が地下部に比べて大きいいため強風には弱い。

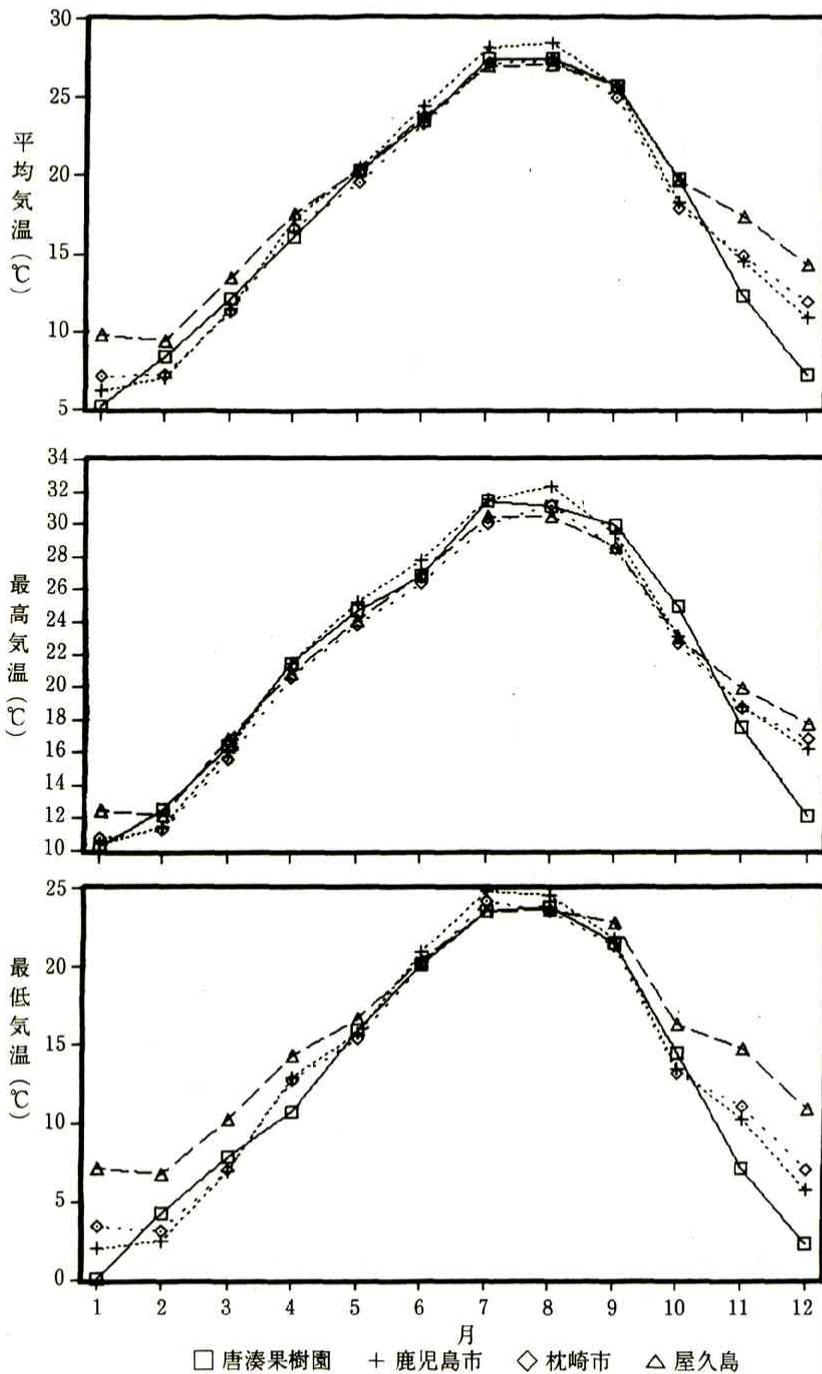
2. 唐湊果樹園の気象の特徴から見た問題点とその改善法

1986年について唐湊果樹園の月平均気温の推移を晩柑類の産地である枕崎、屋久島と比較してみると、日平均気温では11月、12月および1月が2～7℃低い。中でも最低気温は、屋久島に比べて約8℃、枕崎から3～5℃低い。さらに、同一地域内にある鹿児島地方気象台と比較しても、日平均気温で11月～1月が2～4℃低く、台地中腹の谷間で冷気が滞留しやすい地形的特徴が明かである。

以上のように、唐湊果樹園は、冬季の気温が明らかに低い。晩柑類やビワの品質低下が避けられず、栽培適地とはいえない。しかし、晩柑類には、温州ミカンに比べて糖度が高く、また香りの良

い特徴ある柑橘が多く、即売会の目玉商品になっている。また、収穫時期の異なる多様な果樹を栽培して労力配分の平均化をはかることが今後ますます必要である。

したがって、晩柑類の高品質化をはかるために施設栽培の必要性があげられ、今後の対策として、屋根掛栽培による晩柑類の完熟栽培をめざしたい。



第1図 平均気温、最高気温および最低気温の推移 (1986年)